

オアシスの森くらぶ

ニュースレター14号 2002.2.23発行

発行 オアシスの森くらぶ
編集委員会
発行人 永田 修二
編集人 近藤 眞史
編集長 五十川 幸夫

11月定例活動「竹炭焼き」

村田 英二

2001年11月23日(金)24日(土)の二日間に渡り竹炭焼きを行ったことを報告します。

植生管理で発生する間伐材処理は全国的にも問題となっていますが、オアシスの森においてもその処理方法は確立されていません。私はかねがね間伐材を炭として利用することが有効な手だてと考えており、特にボランティアではコスト(人件費)を気にする必要がないことから成果が出やすいと思っています。

オアシスの森くらぶの取り組みとしては未だ釜の常設が認められておらず、炭焼き釜の常設にむけての実績の積み重ねが求められています。

今回も昨年に引き続き中津川より松川さんをお招きして指導を仰ぎました。

釜は前年に購入したステンレス釜のみを使い、野浪さんの助言で、石と粘土で釜を囲み断熱効果を高め、釜の性能アップに力を入れました。

また燃材に枯れた松を薪にして利用し燃焼温度を高めたり事前の竹材の乾燥にも注意を払いました。

火入れは午前11時で、竹材の自燃後は、煙の温度を70前後に保つ様に空気量を絞り、竹材の自燃は順調に進みました。



火加減を見守る炭焼き最強スタッフたち

午後の11時過ぎに釜の温度が急激に上がりはじめ煙突から赤い炎が1、2分上がった時を見計らって、しばらくの間、空気を送り込んだ後、釜を締めました。

翌24日の午前中に釜を開ける予定でしたが釜の温度が下がりきっておらず、2週間後に釜を開けました。

今回の竹炭は大変出来がよく(野浪さんが炭の電気抵抗を測定して判定してくれました。)自分自身大変満足しています。

炭焼きの最中の煙の量も前回に比べて大変少なくなり、予め材料の乾燥に配慮したことが功を奏したと思います。

また釜の設置時や炭焼き中に多くの市民の方に声をかけられ、クラブの活動に関心を持ってもらったことが少し嬉しかったです。

今回参加出来なかった方、次回炭焼きにチャレンジしませんか。

竹炭のできばえは上々。会員だけでなく、通りすがりの方々とも山分けできて気分も上々。



12月定例活動「門松づくり」

大館 学

(門松)元々は、正月の神様が宿る場所として、玄関や床の間、いろりのそばなどに飾られた。近くの山で木を切って使ったため竹や松などに限らず、柳、榊、櫻などを使う地域もあるそうだ。竹の切り方も斜めに切る地域と、中国地方のように葉のついた長い竹を使う地域、3本束ねる位置も土地により異なるそうで、これが門松というようなお手本はないそうである。

(顛末)平成13年最後の森くらぶ例会は、12月22日(土)天気にも恵まれ比較的穏やかな一日に、恒例となった梅の剪定と門松作りの予定に、今年小屋の道具の整理や竹林の整備など盛りだくさんの内容で始まった。当初、「門松は例年より簡素な作りでいいのでは。」との意見があり、「午後からやれば十分。」とのことで、午前中に竹の切り出しと梅の剪定で材料だけ準備することとなった。

1時すぎ、設置場所となる山根口で作業にとりかかったころはまだ「簡素なもの」路線であったが、竹材ととも

に村田さんが登場してから、急きょ路線変更となり、結局例年どおり竹の枠に入れた大きな門松を作ることとなった。今からで間に合うのか多少の不安感もあったが、竹を切る人、割る人、釘の穴を開ける人、釘を打つ人など例年の経験でコツをつかんだ面々が分業して何とか形が出来上がった。仕上げは女性陣が南天、クマ笹、梅などでき

れいに飾りつけ、完成。今年は葉ボタンがないので少しさみしいとの声もあったが、立派な出来栄に一安心。

(私の感想)例年のことだが、竹を斜めにささくれが出ないように切るのはやはり難しい。竹の枠作りでは、今年買ったドリルが大活躍。やはり道具は便利だ。



02年が森くらぶにとってもより輝ける年となりますように。

相生山緑地オアシスの森くらぶ 第3回 どんぐり祭り

10月27日、秋晴れのポカポカ陽気のなか、毎年恒例となりつつある第3回「どんぐり祭り」を開催しました。
近隣の子どもたちやその家族など一般の方々と、くらぶのメンバーの約130名が参加して、みんなそれぞれが好きなコーナーを回ったりして、秋の一日を森のなかで楽しく過ごしました。

くらぶのメンバーは、それぞれのコーナーの準備や運営に精一杯頑張りました。皆さん本当にお疲れさまでした。

(第3回どんぐり祭り実行委員長) 近藤 真史

どんぐりみこし

今回の「みこし」は、グルーガンという接着剤を使って、参加した子どもたちがどんぐりや落ち葉などを貼りつけたりして、見事に飾り付けができました。「決して手抜きではありません！（スタッフ談）」
自分たちの作ったみこしをかつぎ、ワッショイ、ワッショイのかけ声とともに、森のなかを練り歩きました。



はじめはのっぺらぼうのみこしも、子どもたちの手で素晴らしい姿に生まれ変わった。

自然観察会

自然観察会は、今回初めてウォークラリー形式でやってみました。
参加者たちは、スタッフの用意した問題の解答を求めて、森のなかをめいめい探検して回りました。



全問正解できたかな。
スタッフの厳しい(?)目でチェック!



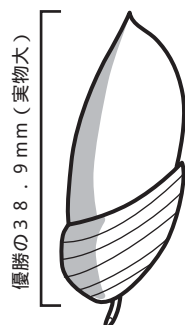
結局順位は付けなかったけど、「トロフィーがほしい!」という二人の子どもに、特別賞が与えられた。

どんぐりの背くらべ

「どんぐりの背くらべ」には、約20名が参加し、森でめいめいに拾ってきたどんぐりの背の高さを競争しました。計測を始めてすぐに、30mmを超える大物が次々と持ちよられ、午前中の最高記録37.2mmは、なかなか誰も追い越すことができませんでした。
しかし、さらに大きなどんぐりを見つけようと粘り強く探し続けたみんなの手によって、午後になると記録は次々と塗りかえられ、結果は、優勝者が38.9mm、準優勝者が38.0mmで栄光のトロフィーを勝ち取りました。
一見みんな同じに見えるどんぐりの中にも、よく探してみると、太くて大きいどんぐりや、ひょろっと長細いどんぐり等、個性的な形をしたものがみつかっておもしろいですね。
(玉田)



優勝、準優勝のトロフィーを手に、喜びの気持ちいっぱいの子どもたち



元祖柴刈り大会

柴刈り大会は、今回は参加者が十分に集まらず、ちょっと残念。でも、一般の人たちにも「森の手入れ」のことを知ってもらおう大事な企画なので、次回ももちろんやります!
どうやったら、みんなが楽しく参加できるか、アイデアを考えなくっちゃ。



スタッフに手ほどきを受けながら、竹と格闘する一般参加の子ども

森のクラフト

森のクラフトは、子どもたちにとって祭りに参加する最大の目的の一つ。

今回は竹でつぼうを中心に、大人向けで竹かごづくりにも挑戦。

親子で竹工作に熱中しました。



薄く削った竹を編み、うまく竹かごができるかなあ・・・

森のレストラン

祭りに参加する皆さんに、何かおいしいものを提供できないものか、話し合いの結果、とん汁と薫製をサービスすることになりました。

とん汁については、出来ることなら具たくさんのおいしいものを...と、スタッフ6名が力を合わせてじっくり煮込むこと3時間余り、11時半にはおいしいとん汁の出来上がりです。

一方、薫製については、くらぶ員のI氏が約10日程前から仕込みを始め、スモークチキンとスモークソーセージを作ってきてくれたので、当日はそれをスモークハウスに収納し、煙を出しながらその様子を皆さんに見てもらいました。子どもを始め大人からも、見たことのない人達にとっては興味深いようで、薫製の作り方についていろいろな質問が出ていました。

おかげさまで食券は完売となり、ご賞味いただいた皆さんから、とん汁、薫製ともにとってもおいしかったと好評を頂き、スタッフ一同ホッとしたのが実感です。皆さんのご協力、本当にありがとうございました。(平尾)

森のなかに響きわたるオカリナの澄んだ音色に、参加者全員が聞き入った。



料理上手なスタッフが一致団結。とっってもおいしいとん汁ができあがった。

森の音楽会

今回は、第1回にもお願いした「エーデルワイス」(南区)の精鋭メンバーたちが、秋をテーマにした童謡をはじめ10曲ほど披露してくれました。

演奏中は他の全てのコーナーの手を休めて、美しい音色に聞き入りました。

やごと ちようちよう 八事の蝶々ワークショップ

「八事の蝶々の会」のメンバーの指導のもと、郷土玩具づくりに挑戦。

あらかじめ用意された竹ひごの骨組みに和紙を貼って、色を塗りオリジナルの完成!



初めて見る郷土玩具に子どもたちも興味津々。

丸太早切り大会

祭りの最後は、丸太早切り大会でみんな盛り上がりました。予選、準決勝、決勝と、多い人は3回も丸太と格闘し、大変お疲れさまでした。

大人の男性には、ちょっとハンデが大きすぎたかな?



ハンデはあったものの、優勝、準優勝はともに女性。やはり母は強し(?)

森の住人たち ~アズマヒキガエル~



アズマヒキガエル
体長

ヒキガエル科
10~14cm

棲息地
餌

森、竹林などの草むら
昆虫など

「きゃあ~」「なんだ、なんだ」森の手入れの最中に、こんな騒ぎがおきることがある。石や積み上げていた資材を動かすと、イボ状の突起のある褐色の塊に出会って驚くようだ。ヒキガエルとわかり騒ぎがおさまると、疑問がわいてくるらしい。

「なぜここにいるの、水辺じゃないのに・・・」

芭蕉の「古池や かわず飛び込む 水の音」。この句が多くの人の意識にカエル=水の公式をつく

りあげている。

ヒキガエルは陸のカエルで、繁殖期、産卵期以外、水中にはいることはない。

「へえ~そうなの。はじめて知った」たちまち、その場が自然を学ぶ場になる。

ヒキガエルは森、林などの草むらにすみ、夜間に昆虫、カタツムリ、ミミズなどを捕食する。2~3月に産卵し、ひも状の卵塊は長さ10cmにもおよび、7~8000個の卵が含まれている。やがて3α弱の真っ黒なお

たまじゃくしになる。後ろ足がで、前足がで、尾が消えると1αほどのヒキガエルの誕生。おびたしい数のヒキガエルが、水辺から一斉に森をめざして移動する様は圧巻である。小さな命に思わず「がんばって」と声をかけたくなる。

さて、今年の産卵はいつだろう。その日は、春が、一歩近づいて来る日・・・

(文責 近藤記巳子)

当日の天気予報は、東北から北陸地方に初雪の予想、まさに「お山は雪だんべー」と、今年の冬到来を予想していました。

いよいよ冬の雑木林の手入、それも伐採主体の講義内容とあって、自慢の？ 道具を持参しての森林労働者！ と、防寒準備おさおさ怠りなく、出かけました。

ところが、東海地区は冬型とは言っても、少々西北の風がきつい程度の小春日和、午前中の林先生の座学も寒く

なく、昼食時間に。

午後からは、地域を決めて、3年・5年後のこの場所の植生を意識しての、伐採活動！

林先生・野尻講師の説明も右耳から左耳へ。ただ伐採の目標樹木を確認しながらの生徒でした。

何が快感といっても、枯れた松（根もとの腐葉土をかいてやれば、まだまだ元気だったかな？）四本を皆の協力で切り倒す作業の楽しかったこと！

私も日ごろのストレス解消は、破

壊活動（例えば茶碗を割る！）で、発散する破壊の人間であることを実感しました。

ただ、伐採も、里山は人手の管理があつてこそ、里山自然が維持できるとの、お話は、実感できました。

最近、相生山緑地が、少しずつ里山の景観をとり戻していると感じると、我々の活動も、無駄ではないと、一人で悦んでいます。

皆様はいかが感じますか？

「森づくり実践講座」を終えて

天白生涯学習センター 稲垣純子

相生山緑地オアシスをフィールドに講座を続けて、今年で6期目。このところ、講座内容が「お楽しみ」に流れがちだったので、今年は系統的に里山管理の基本を学ぼうと、厚かましくも超多忙な林進先生に全4回にわたり講師をお願いすることになった。

第1回目は「樹木を知り、森を大きく把握する」。森の観察とはどういうことかの講義の後、森を観察。樹冠投影図と植生調査などをしたりして、日の当たり方や土地の状況による植生の違いを実感。

照度計などを使いながら、日照と植生の関係を学ぶ。



第2回目は「森を調べる～森の測り方、森の構造を知る～」。光環境や水環境と植物の関係を学んだあと、実際に植生の分布調査。

第3回目は「森にどうかかわるか～手入れする森、自然の森～」。森に手を入れるときに心得ておくべき植物生理、日照条件・水分条件と手入れの方法などを学び、伐採の実習。伐採した材木でベンチを作った。

学んだ知識を活かして竹林の植生管理を実践



第4回目は「植生管理の実際～どの木を切るか～」暗い森を明るくするためにどの木を除去するのか、林先生から学んだことをもとにグループで考え合い作業を行った。

受講者からは「従来の講座から一

歩進んだ専門的な内容でよかった」「森が少し見えてきた」と好評であった。大学レベルの内容と思われたが、皆さん落ちこぼれず熱心に参加された。このような学びの場がこの地で実現できたのは、林先生や野尻さんのご協力とともに、森くらぶを始めとする森の活動に関わる多くの市民がいてこそである。天白っていいまちだなあとつくづく思う。

講座での学習がこれからの森の活動に生かされることを期待したい。

会員募集中！

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。具体的な活動内容は

オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。

公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。

植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。

柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。

その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

会費は年間1500円（保険料含む）です。主に連絡、郵送費です。

振り込み先（郵便局）

オアシスの森くらぶ00860-7-33725

連絡は事務局までどうぞ

定例活動スケジュール

3 / 23 (土) 第4回萌木まつり
(同時開催：第2回天白もりフォーラム・フィールドサーキット)

4 / 27 (土) チェンソーワーク講習会

5 / 25 (土) ミニトンボ池づくり

6 / 22 (土) 「森を10倍楽しむ方法」講習会

4～6月の予定は、講師の都合等により順序・内容の変更あり。

その他活動予定

4 / 13(土)・14(日) 「ナゴヤテレビ 春まつり2002」出店協力
会場：久屋広場（久屋大通り公園 松坂屋本館前）

5 / 11(土) 総会

5 / 19(日) エコのもりセミナー「森のレストラン」会場：トヨタの森

森くらぶ情報センター

参加申込みやお問合せなど

ニュースレターをメールで配信

ホームページをご覧ください

事務局
伊藤百寿人 052-895-8523
中島己治男 052-803-9534

申込先
e-mail : isoiso@eva.hi-ho.ne.jp
e-mail : masashi_k@muf.biglobe.ne.jp

e-mail : yoji-toyo@amy.hi-ho.ne.jp
URL address : http://www.amy.hi-ho.ne.jp/yoji-